

第17回防災まちづくり大賞表彰式

防災課

第17回防災まちづくり大賞表彰式が、去る1月23日(水)、総務省地下二階講堂において行われました。

防災まちづくり大賞は、阪神・淡路大震災を契機に、平成8年度から開催しているもので、地域のコミュニティや事業者等が行っている防災に関する様々な取組を、各都道府県による推薦、あるいは各活動団体からの自薦により応募していただき、特に優れた事例を表彰しているものです。

表彰は、「一般部門」及び「住宅防火部門」の2部門があり、今回は全国から96事例（一般部門89事例、住宅防火部門7事例）の応募がありました。

その中から、今年は、岩手県立宮古工業高等学校 機械科 課題研究 津波模型班（岩手県宮古市）、特定非営利活動法人 せんだいファミリーサポート・ネットワーク（宮城県仙台市）、楽曲「うちのUFO 住警器」作成グループ（東京都江戸川区）の総務大臣賞3事例をはじめ、消防庁長官賞4事例、消防科学総合センター理事長賞5事例、日本防火・危機管理促進協会理事長賞2事例が選ばれました。

今回の受賞事例についての特徴として、次のような点があげられます。

地域的な傾向については、東日本大震災を経験した被災地の受賞が目立ちました。

活動内容については、地域社会のこれからの担い手である、児童・生徒・学生の方々が、地域防災に主体的に取り組んでいる事例が多く、受賞団体全体の約4割を占めました。

また、東日本大震災以降、人と人とのつながり、絆の重要性が指摘される中で、地域社会における平日頃からの住民相互間の絆づくりを地域防災に生かそうと取り組んでいる事例も複数あり、その他の受賞事例も特徴的で工夫を凝らした事例が多々ありました。

受賞団体におかれましては、今回の受賞を契機として、より充実した活動を展開していただき、周辺地域のみならず、全国各地の良きモデルとなっていきたいと考えております。

消防庁では、今後も表彰や啓発資料の提供等を通じ、こうした地域に密着した草の根の防災活動を支援していきたいと考えております。

なお、過去の防災まちづくり大賞の受賞団体については、(財)消防科学総合センターのホームページ (<http://www.isad.or.jp/cgi-bin/hp/index.cgi>)で御覧になれます。

受賞団体一覧

部門名		一般部門	住宅防火部門	計
応募数		89	7	96
表彰名	総務大臣賞	2	1	3
	消防庁長官賞	3	1	4
	消防科学総合センター理事長賞	5	-	5
	日本防火・危機管理促進協会理事長賞	-	2	2
受賞団体総数		10	4	14

総務大臣賞受賞事例の紹介

団体名：岩手県立宮古工業高校 機械科 課題研究 津波模型班

事例名：擬似津波実演会

所在地：岩手県宮古市

概要：宮古湾周辺の地区や地形に合わせた津波の模型を、平成17年度からこれまでに9基製作した。実際に高低差をつけた模型に、色つきの水を使って津波がどのように流れるか、どのような被害が予想されるのかを再現した。この模型を活用して、宮古市の住民や、山田町や釜石市の小・中学生等に実演するとともに、過去の津波被害を紹介することで、参加者の防災意識の高揚に取り組んだ事例。

団体名：特定非営利活動法人 せんだいファミリーサポート・ネットワーク

事例名：子育てファミリーのための地震防災ハンドブックの作成と配布

所在地：宮城県仙台市

概要：子育てファミリーのための地震防災ハンドブックの作成に取り組んだ事例。ハンドブックは、東日本大震災を経験した母親たちの様々な視点で構成され、持ち運びができるようにA5サイズにするとともに、イラストを多用するなど工夫がされている。

団体名：楽曲「うちのUFO 住警器」作成グループ

事例名：住警器ソング「うちのUFO 住警器」&イラストが全国で活躍

所在地：東京都江戸川区

概要：住宅用火災警報器の周知及び設置促進を目的として、住警器ソング及びイラストを作成した事例。この楽曲が全国40都道府県、83の消防本部（応募時）において、住警器の設置促進キャンペーンや各消防本部のホームページなどによる広報などに広く活用されている。



主催者挨拶をする岡崎浩巳消防庁長官



防災まちづくり大賞受賞者記念撮影

問い合わせ先

消防庁国民保護・防災部防災課地域防災係 岩片
TEL: 03-5253-7525